

会派みらい 政務調査報告

今、地域の価値を
見直す！活かす！

～人々のくらしの中から～

はじめに

「今年度の会派の活動方針」

【政策的課題】

～リニア時代の交流に向けて～

地域資源を生かしたまちづくり

H25～H28、「直面する人口減少による縮小社会とどう向き合うか」
をテーマに調査研究

これまでの調査研究から



H29年度～H30年度・・・

「地域資源を生かすことから
市民生活の基盤づくりを
行うこと」が重要である。

1. 視察地(徳之島・奄美大島)



2. 視察先

- ・徳之島 「伊仙町役場」
子宝日本一
- ・徳之島 「エコツアー」
集落めぐり
- ・奄美大島 「あまみ大島観光物産連盟」
地域版DMO

なぜ

徳之島？

“条件不利地” の地域を磨く！

シリーズ「田園回帰」(農文協)8冊を



会派で購入



「田園回帰」に
“子宝日本一のまち”

の

執筆を発見！

松岡由紀さん

徳之島・伊仙町役場 未来創生課 主査

德之島 伊仙町



徳之島 伊 仙 町

★「子宝日本一」のまち

- H15年～H24年までの10年間連続、合計特殊出生率2.81が全国1位
- 徳之島空港は、2012年から「徳之島子宝空港」の愛称
- 長寿世界一を2人も輩出

★人口 6,753人

★第1次産業が主要産業

意見交換会



松岡由紀主査

美島議長

大久保町長

合計特殊主出生率 全国1位の要因

①「子ども宝」(くわーどったから) <子は宝>

- ・古くからの教え、みんなで見守り子育てを支援

②高い地域力

- ・地区公民館での合同祝い(こどもの生誕祝い、小学校入学祝、成人の祝いなど)

合計特殊主出生率 全国1位の要因

③共助の仕組み

- ・子育てに対する親族や地域の人々からの支援網が充実している
- ・地域に、子・孫の世話を生きがいとする高齢者が多い

④出産、育児に関する公的サービスの充実

- ・幼稚園、保育園の設置数が多くサービスが利用しやすい
- ・敬老祝い金を減額し、一部を子育て支援に充てる(町政懇談会での高齢者からの声を反映)

伊仙町の子育ての特性・魅力

- 保護者間、地域間で子どもを見守る”顔が見える”地域性がある。地域が見守ってくれるのでお互いに頑張れる(町が子宝と言われる大きな要因)
- 子どものことには町民が協力的であり、町民はそれが当たり前と思っている
- 移住者にはおせっかいな人が多い
- 皆が顔を合わせる場づくりに熱心
- 一家庭3人～4人が当たり前(2, 3人の家庭は少ない)
- 小集落の小規模校を残していく(町長の方針)
(小規模校への優先的な住宅建設、集落の歴史・伝統文化の継承、復活などの施策を推進)

子宝日本一のまとめ ① 「経済？」

- 都市では、現役世代の多くが経済的な不安を理由に子どもを産み控えている現実がある。
- だが、伊仙町では経済力と子どもの数はほとんど関連していない。伊仙町の2016年度の住民一人あたりの課税対象所得（総務省「市町村税課税状況等の調」）は約221万円。東京23区の平均（約500万円）の半分以下。それでも、伊仙の人々は出産をためらっていない。

子宝日本一の“まとめ” ② 「文化」

- なぜなのか。お金がなくても助け合う文化があるからだ。
- 伊仙町ではみんなだいたい畑を持っているし、牛を飼うなど兼業している家庭も多い。穫れた野菜やコメを近所の人たちで分け合う文化もある。現金収入は少なくても、何とか食べていける。だから、収入が子どもを持たない理由にはならない。

子宝日本一の“まとめ” ③ 「若者」

- 長年続いていた転出超過による社会減が、2013年以降転入者の増加で社会増へ転換。背景には若者たちの心情の変化がある。
- これまで町の若者たちは便利で豊かな都会の暮らしを求めて島を出て行った。今は、逆に都会にはない人とのつながりや地域の絆に価値を見出す若者たちが増えてきている。島の豊かな暮らしが、再評価されはじめているのかもしれない。

伊仙町 エコツアー



何気ない地域資源を“売り”とする

伊仙町 エコツアー

- 『集落』という地域資源を活かす
- 徳之島の自然の素晴らしさや魅力をわかりやすく伝えることができる

伊仙町 エコツアー



ガイド：
常 加奈子さん



伊仙町 エコツアー

(報告書よりまとめの解説)



奄美大島 「地域連携DMO」



なぜ

奄美大島？

地域連携型DMO

(株)南信州観光 公社

「地域連携型DMOの確立と継続的な運営を行う」

||

奄美大島5市町村による地域連携DMO
あまみ大島観光物産連盟



奄美市

奄美大島 「地域連携DMO」

(一社)あまみ大島観光物産連盟

奄美大島5市町村による地域連携DMO。

奄美大島の海、唄、酒、食、情景等の文化を観光客にワンストップでの提供を目指す。

奄美大島 「地域連携DMO」



事務局長 境田清一郎氏
(元名瀬市議会議員)



昭和28年生まれ 65歳

奄美大島 「地域連携DMO」

- 2016年1月からDMO事業に取り組み、2016年12月に一般社団法人化した地域連携DMO。その1か月前の11月に、観光庁の日本版DMO候補法人として登録されている。
- DMOとして目指すのは、着地型観光をベースに奄美大島の本来の姿を観光に結び付け、住民一人一人が主役となって地域活性化を図ること。地域一体のワンストップ窓口となり来訪者の受け入れと満足度向上に繋げる。

地域連携DMO 「中期戦略」

○2017年3月に策定された連盟の「奄美大島中長期観光戦略」(JTB作成)では様々な取り組みのゴールを「島民の幸福度の向上」に置いている。年1回のアンケート調査を行い、「奄美幸福度指数」として数値化して検証を始めている。

○「島らしく幸せに生きている人の幸せを、観光によって変えるのではなく持続させて、その価値観を見える形にしていきたい」を理念としている。

奄美大島 「地域連携DMO」

- ジェイティービー（JTB）と現地体験予約サイトを運営するアソビューが共同開発した観光商品の販売管理システム「エリアゲート」を、公式サイトに導入し、2017年1月26日に稼働を開始した。

※「エリアゲート」とは、自治体やDMOの公式サイトを通して、地域コンテンツの管理・販売を実現するクラウドシステム。地域の宿泊施設や体験プランなどを公式サイトに掲載して情報発信の場とするほか、流通支援、販売管理、販売に係るデータ収集と分析にも対応する。販売金額に応じた手数料収入も可能で、DMO自らが稼ぐための収益源にもなる。つまり、日本版DMOに求められる役割を、効率的にサポートしてくれるシステム。

「連盟＝観光協会」



港での大型観光船の見送り

地域連携DMO 「まとめ」

- 飯田市の活プロでは観光業の分野で「南信州圏域の広域的な観光地域づくりに向けたプラットフォームとして、(株)南信州観光 公社の機能強化を行い、地域連携型DMOの確立と継続的な運営を行う」としている。
- DMOの設立、運行管理にあたっては、**外部の目も入れた綿密な調査による基本計画**と、広域的な連携のための「**明確な地域のイメージ**」を打ち出す必要がある。

今回 お世話になったみなさん



今回 お世話になったみなさん



ご清聴ありがとうございました



会派みらい

